

# 1月例会

2022. 1. 19

日時 令和四年一月十九日(水)

テーマ 自然実験がもたらした実証経済学の変革

講師 東京大学大学院経済学研究科・公共政策大学院 教授

川口大司氏



労働経済学 - 理論と実証をつなぐ, 有斐閣 (2017/12/22)

## ■ 略 歴

1994年早稲田大学政経学部経済学科卒。2002年、米ミシガン州立大学経済学部博士課程修了(Ph.D. in Economics)。筑波大学社会工学系講師、一橋大学大学院経済学研究科教授等を経て、現職。東京大学政策評価研究教育センターセンター長。第4回円城寺次郎記念賞(2015年)、第11回日本経済学会石川賞(2016年)、第13回日本学士院学術奨励賞(2017年)、第13回日本学術振興会賞(2017年)など受賞。

## 川口大司氏



かわくち・だいじ  
1970年生まれ。ミシガン  
州立大学(経済学)で  
専門は労働経済学、実  
証ミクロ経済学

経済学への興味は、幼少期の頃から。父が経営者で、父の経営者としての経験が、経済学への興味を醸成した。大学では、経済学を専攻し、労働経済学や実証ミクロ経済学を専門とする。博士課程修了後は、筑波大学で講師、一橋大学で教授を務めた。現在は東京大学で教授を務め、政策評価研究教育センターセンター長を務めている。第4回円城寺次郎記念賞(2015年)、第11回日本経済学会石川賞(2016年)、第13回日本学士院学術奨励賞(2017年)、第13回日本学術振興会賞(2017年)など受賞。

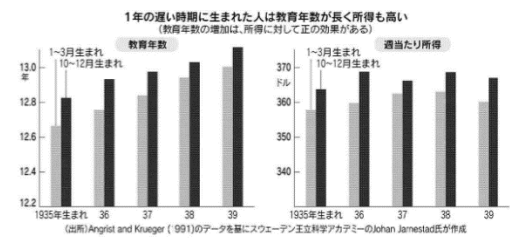
川口大司 東京大学教授

ノーベル経済学賞にカード氏ら

## 「自然実験」で因果関係推定

**ポイント**  
最低賃金引き上げや従軍経験の影響推定  
実証経済学や計量経済学の手法にも影響  
質の高いデータへのアクセスの意義を示す

カード氏はランダム化比較試験(RCT)の手法を用いて、労働市場での因果関係を推定する。例えば、最低賃金を引き上げた地域と引き上げなかった地域を比較することで、最低賃金の引き上げが賃金や雇用に与える影響を推定する。また、従軍経験が賃金に与える影響を推定するために、従軍経験の有無をランダムに割り当てるような自然実験を利用する。



経済教室「自然実験」で因果関係推定 ノーベル経済学賞に米3氏  
(日本経済新聞,2021年10月20日)

ノーベル経済学賞に米3氏が選ばれた。川口大司氏は、労働市場での因果関係を推定する手法に貢献した。具体的には、最低賃金の引き上げや従軍経験の影響を推定するために、ランダム化比較試験(RCT)や自然実験を利用した。この手法は、労働市場での因果関係を推定するために有効である。川口氏は、この手法を労働市場に適用することで、最低賃金の引き上げや従軍経験の影響を推定することに成功した。この成果は、労働市場の因果関係を推定するための重要な貢献である。

テーマ 米中ハイテク覇権競争と台湾半導体産業

講師 日本貿易振興機構(ジエトロ)アジア経済研究所 地域研究センター・センター長

川上桃子氏

■ 略 歴

1991年東京大学経済学部卒業、アジア経済研究所入所。2008年東京大学大学院経済学研究科博士課程単位取得退学。2011年東京大学より博士(経済学)学位取得。アジア経済研究所在台北・バークレー海外調査員、地域研究センター東アジア研究グループ長、同センター次長等を経て現職。専門は台湾を中心とする東アジアの産業、企業。2013年6月に著書『圧縮された産業発展』により、第29回「大平正芳記念賞」を受賞。

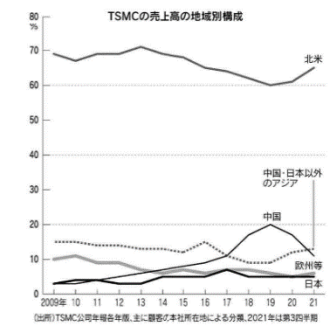


川上桃子氏

1991年東京大学経済学部卒業、アジア経済研究所入所。2008年東京大学大学院経済学研究科博士課程単位取得退学。2011年東京大学より博士(経済学)学位取得。アジア経済研究所在台北・バークレー海外調査員、地域研究センター東アジア研究グループ長、同センター次長等を経て現職。専門は台湾を中心とする東アジアの産業、企業。2013年6月に著書『圧縮された産業発展』により、第29回「大平正芳記念賞」を受賞。

台湾半導体産業の競争力 川上桃子 日本貿易振興機構アジア経済研究所地域研究センター長

TSMC、米中双方が重宝



最先端の微細加工技術と顧客支援が強み。TSMCの資源配分巡り各国間で競争も。日本の技術革新力や市場の魅力問われる。

中国(チャイナ)ファクターの政治社会学:台湾への影響力の浸透

迫り来る中国の影に台湾はどう向き合っているのか?

白水社

川上桃子・吳介民 編 川上桃子 監訳 津村あおい 訳